

## 開会の挨拶

信州大学 学長  
濱田州博氏

皆様、こんにちは。ただ今ご紹介に与りました信州大学長の濱田と申します。平成30年度北陸信越工学教育協会年次シンポジウムの開催に際し、一言ご挨拶を申し上げます。本日は、多くの皆様にご出席いただき、誠にありがとうございました。まずは厚くお礼を申し上げます。

本日のシンポジウムでは、基調講演として、文部科学省高等教育局専門教育課の山路尚武（やまじなおたけ）様に「工学系教育改革等について」と題してお話しいたします。ご多忙のところ、基調講演をお引き受け頂き、誠にありがとうございました。本年3月に出了した「工学系教育改革制度設計等に関する懇談会取りまとめ」を拝見しますと、4つのポイント、学科・専攻定員設定の柔軟化と学位プログラムの積極的な導入、学部段階における工学基礎教育の強化（最低限の基準設定）、学部・大学院連結教育プログラムの構築、産業界との教員人事交流促進等を含めた連携強化が示されております。本日はそれらも含めたお話しが拝聴できるものと楽しみにしております。

次に、繊維・ファイバー工学に関する教育事例を京都工芸繊維大学、福井大学、信州大学の3大学より紹介いただきます。繊維・ファイバー工学分野の大学・大学院における教育をどのように行うかは世界の様々な繊維系大学で議論されております。異分野融合・異分野連携を積み重ねてきた分野であるが故の様々な取組が行われており、ある意味参考となる分野かと思えます。

そして、招待講演として、東洋紡株式会社代表取締役会長の坂元龍三様に、「企業から見た人材育成と大学院教育への要望」と題してお話しいたします。ご多忙のところ、招待講演をお引き受け頂き、誠にありがとうございました。信州大学におきましても経営協議会委員として様々なご意見を頂いており、本日も企業側から見たご意見を拝聴するのを楽しみにしております。大学教育・大学院教育は、企業等社会との接続も考えて行っていく必要があります。ただ、企業も社会も時代と共に変わっていきます。そのため、大学教育・大学院教育では、変わらぬものと変わるものを見極め、永続的に必要な教育を核とし

つつも時代に応じた教育も組み込んでいく必要があるのではないかと考えております。

本日のシンポジウムが工学系教育の在り方を深く考えるきっかけとなり、それぞれの大学でその大学の特性に応じた教育の在り方を様々な視点からの意見を参考にしながら構築していただければと期待しております。結びとなりますが、北陸信越工学教育協会の益々のご発展、関係する皆様のご活躍・ご健勝をご祈念申し上げ、開催にあたっての挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。